

市政ニュース

『美・コウノトリ共生応援ベンダー(自動販売機)』を設置 コウノトリ野生復帰支援の輪が広がる

本市が進める「コウノトリ野生復帰の取組み」を支援するため、近畿ペプシコーラ販売株式会社により、7月1日、『美・コウノトリ共生応援ベンダー(自動販売機)』の1号機が、市役所建設課横に設置されました。

この『美・コウノトリ共生応援ベンダー』のパネルが表示された自動販売機で商品を購入すると、商品1本につき1円が、豊岡市コウノトリ基金に寄付されます。さらに、自動販売機に設定された寄付専用ボタンを押すと、10円単位で任意の金額を寄付することができます。

同自動販売機は、市内12カ所に設置される予定で、順次設置が進められています。(寄付専用ボタンは、1号機のみ)

中筋地区公民館に県民交流広場が完成 地域住民の新たな活動拠点に

県が平成18年度から実施している「県民交流広場事業」の一環として、誰もが自由に利用できる「県民交流広場」が中筋地区公民館に増設されました。

市では、奈佐、福住、合橋地区公民館に引き続き4番目の整備で、既存の施設を増築しての整備は、今回が初めてです。

当日は、式典の後、「バルーン



新たな交流の場として増設された県民交流広場

障害者多機能施設「はばたけ」前に「コバスのバス停を新設」 「コバス」がもっと身近なものに

7月1日、豊岡市九日市中町の障害者多機能施設「はばたけ」前に市街地循環バス「コバス」(Aルート)のバス停を新たに設置しました。

現在、多くの通所者の皆さんにコバスを利用いただけていますが、最寄りのバス停が施設から距離があるため、通所者の皆さんの利便



新設したバス停でコバスに乗り込む通所者の皆さん

環境経済型事業セミナー(市民環境大学)を開催 環境経済型事業のきっかけに

7月5日、中小企業金融公庫総合研究所の海上泰生(うなみ やすお)さんを講師に迎え、「第1回環境経済型事業セミナー」をじばさん但馬で開催しました。

当日は、「エコの視点をビジネスに」をテーマにして国内外の環境政策の動向や中小企業がエコビジネスで取り組むべきポイントなどの講義に34人の受講生が参加し、熱心に耳を傾けていました。

また、講義終了後には講師を囲んで交流会を行い、エコ



参加者は講師の説明に耳を傾け、思いをめぐらせていた

日	主な市政の動き
6月1日	合橋地区公民館竣工式
2日	植村直己冒険賞授賞式・記念講演会
5日	「被災地からおくる防災・減災・復旧ノウハウ集」発行
10日	全国水害サミット(東京都)に市長出席
17日	「頑張る地方応援プログラム」の推進に向け、菅 義偉総務大臣が豊岡市を視察
24日	日高町山本放鳥拠点でのコウノトリ段階的放鳥に着手
25日	環境社会学会シンポジウム
26日	頑張る地方応援シンポジウム(東京都)に市長が出席し事例発表
28日	中央環境審議会「自然環境野生生物合同部会生物多様性国家戦略小委員会」(東京都)に市長が出席し意見発表
29日	豊岡市感謝状贈呈式
30日	コスモス荘物故者慰霊塔竣工式
7月1日	日欧共同ワークショップ「シンポジウム」に市長が参加し講演(7月10日)
7月7日	出石町小坂地区に人工巣塔設置
7月10日	竹野浜海開き
7月17日	中筋地区公民館県民交流広場開設
7月30日	気比の浜海開き

人工巢塔が小坂小学校(出石地域)付近に設置 地域住民の期待を背負って「ここから巣立ってコウノトリさん」

6月30日、放鳥コウノトリが繁殖しやすいようにと、人工巢塔が小坂小学校出石地域(付近の水田横の市道に設置されました。

当日は、コウノトリファンクラブ会長で俳優の柳生博さんや地域の住民ら約170人が見守る中、高さ約12メートルのコンクリート柱の上に巢塔が乗せられ、巢塔が完成しました。

同小学校PTAから寄贈され、コンクリート柱の寄贈と建立作業は(株)関西電力が行いました。巢塔の木の枝は小坂小学校の児童らが近くの山で集めたものです。



コンクリート柱に巢塔が乗せられ人工巢塔が完成した

「城崎温泉駅を愛する会」から寄付を受けました JR城崎温泉駅をバリアフリー化で利用しやすい駅に

6月28日、城崎町商工会や城崎温泉観光協会などで行く「城崎温泉駅を愛する会」(代表:西村 肇さん)から、JR城崎温泉駅のバリアフリー化などに役立ててほしいと、1,500万円の寄付をいただきました。

西村代表が、寄付を募った経緯を「町衆の心意気で、この寄付金が集まりました。城崎には親切心を持つ、心のバリアフリー」の文化が深く根

付いています」と話すと、中貝市長は「この寄付金は大切に使用させていただきます。地元の方たちの熱意が、この事業を後押ししてくれていました」と話しました。

なお、城崎温泉駅には、市とJR西日本が費用を分担し、エレベーターを設置することで合意しており、冬のカーニーズンに間に合うように設置工事を進める予定にしています。



寄付目録を中貝市長に手渡す西村代表(左から2人目)

中貝市長の徒然草 ②

田んぼで会おう

ドイツに行ってきました。東京大学の研究事業で、日欧7カ国の研究者、行政マン、実践家などが集まり、湿地再生の現場を調査したり、研究を報告し、議論をする、という旅でした。

同じ時期、イギリスで開かれた省エネカーレース世界大会で但馬技術大学の自動車部は植物燃料部門で優勝、日高東中学校3年の石田裕太郎くんはアメリカで開かれたロボカップ世界大会のジュニア、レスキュー部門で準優勝、と華々しい活躍をしていました。

私は、と言うと、ラウフェンという町のホテルのシャワー室で転倒し(トホホなラウフェン転倒事件)、ひじを負傷して医者に駆け込むという体たらくでした。が、おいらも負けちゃおれんがな

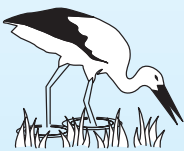
私の出番はベルリンの日独センターで開かれた湿地の保全再生シンポジウムでした。コウノトリの絶滅と復活、農業の再生、環境経済戦略、そ

して出石川で撮られた農家の女性と但馬牛とコウノトリの写真へと話を進めます。会場からドイツの大学教員が「今日はハッピーな気持ちになつた」とコメントしてくれました。「グッドストーリー」と親指を立てた研究者もいました。そして在独の日本人の方たちが自国のことをとても喜んでくれました。

コウノトリをめぐる豊岡の果てしない物語は、国境を越えて確実に人々の心を打つ、そう確信しました。

滞在期間中、最も厳しいコメントを言い続けていたオランダの研究者は、東大のスナップに「豊岡に行くのが楽しみになった。長靴を持っていく。田んぼで会おう」と言い残して去って行ったそうです。

10月、今度は彼らが豊岡の田んぼにやってくる。



中貝市長が2カ月に一度、近況を綴るコーナーです。次回をお楽しみに!